
悪夢の中の夢の中の夢の夢（不思議感覚）

かたこと

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪夢の中の夢の中の夢の夢（不思議感覚）

【Nコード】

N8472T

【作者名】

かたこと

【あらすじ】

悪夢の夢のお話、不思議感覚のお話、

(前書き)

なんとなく書きました(笑)

自分は民間人、そして、自分の住む町がモンスターにせめられ自分も村人も皆食べられた。

自分は食べられた後世界は回る。ぐるぐるとそして気づけばわけもわからない場所にいる。

周りにもやもやとしており見ると吐きそうになってくる。

そして、僕は前を向く前を向いた僕の目に入った物はぼおーぼおーと燃える火の数々。

僕は何かに誘導されるように一歩一歩とゆっくりその火に近づいていった、、何も考えず

気づけば僕は火の前にたっている。しかし、まったく熱くない。

なんだろうか、僕はずっと考える。そして、その後、ぼけつと火の中に体は誘導され火の中に入って行った。すると気づけば別の場所に立っている。

周りはさっきの火のように真っ赤に火のようにぼおーぼおーと燃えている雰囲気を出している壁だ。

そして、また前を向くすると次は人が立っている。黒色の服装に白色のマントを着た男のようだ。

僕はまた誘導されるように近づいていった。そして、僕はたずねた。ここは何処なんだ？と、。

すると男は僕を誘導するかのように急に歩き始めた。

何処に行くんだ！ともたずねた。しかし、男は答えない。するとどンドンどンドン歩きたびに男の速さは上がっていき僕は男に追いつけなくなり男はどこかへ消えてしまった。

なんだったのだろうか、、はあ、、はあ、、と下を向き落ち着かせている僕は落ち着いたので前を向いた。するとさっきまではなかった光が見える。

出口だろうか？そうじゃなくてもなんなんだろうか？自分はまたゆ

つくりと光の方に歩いていった。

光の中にゆらゆらと僕は入って行った。そして、周りはまぶしくなり僕は目を閉じた。そして、目を開けると今度はどこかの森らしき所に自分はいる。今度はなんだろうか、と、とりあえず僕は歩いた。周りは木だらけその中を歩いた。すると1つの村を見つけた。僕はその村の範囲内に入った。するとちょうど僕が入った村はモンスターに攻められた。人々は次々と死んで行く。この状況どこかで見たとような、はじめの状況に似ている。つとつかそのまんまだ。あの時僕は逃げたんだ。あの時の状況を変えよう。僕は逃げないでたっていたのだ。するとモンスターは僕を通りすぎて行きどこかに消えていった。この世界は本当になんなんだろうか？夢なのだろうか？夢だと信じたい。すると村はもわもわと僕の視界から消えて行った。すると世界もぐるぐるともわもわと周りはじめた。あの時に似ているが少し違うような気がする。

そして、自分は気づけば家のいる。ベッドの上に寝ころがっている。僕は起きた。よくわからない夢だったなあつと、そして、僕は部屋を出た。するとそこは、、、

(後書き)

気づいたと思うけどテーマは無限ループです。

最初なんかミステリーな何かをかこうと思ったけど最終的に無限ループという世界を書きました。

もう意味わかんないですよ。意味は考えない方がいいです。自分の感覚で書いた物語なのでね、

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8472t/>

悪夢の中の夢の中の夢の夢（不思議感覚）

2011年10月7日14時06分発行